

令和6年度 学校評価 報告書

松江市立中央小学校

【学校教育目標】			心ゆたかに　たくましく生きぬく　子どもの育成		【めざす子ども像】考える子　やさしい子　がんばる子	
重点目標			結果		良好な点（○）課題点等（●）	改　善　策
○保護者 ●児童 対象項目	教育方針・ 学校経営	①こどもを考えた教育方針、わかりやすさ ②教職員の強みとチームワーク	①プラス評価95％　マイナス評価5％ ②プラス評価91％　マイナス評価9％		○　プラス評価90％以上の高評価であった。 ○　様々な会合等の機会に開校30周年を迎えた学校の取組を紹介し、啓発した効果が高い。	・ 昨年度よりもプラス評価が微減しているため、さらに具体的に説明する等の機会を設け、理解を求めている。
	学習指導	①基礎基本の定着や学力向上の取組 ②学習や活動に向かう「体づくり」 ③読書の推進 ④わかりやすい授業の実践 ⑤地域とかかわる活動 ⑥学習の適切な評価 ①わかりやすい授業 ②読みたい本がある	①プラス評価93％　マイナス評価7％ ②プラス評価95％　マイナス評価5％ ③プラス評価95％　マイナス評価5％ ④プラス評価91％　マイナス評価9％ ⑤プラス評価98％　マイナス評価2％ ⑥プラス評価95％　マイナス評価5％ ①プラス評価96％　マイナス評価4％ ②プラス評価81％　マイナス評価19％		○　概ね90％以上の高評価であった。特に体づくりと地域とのかかわりについては、昨年度を上回り、日々の取り組みを評価いただいている。 ●　読書は昨年度より5P　プラス評価が減少した。一昨年度70％台だったことから、その年ごとに評価が変わる実状があるため、持続可能な計画的な取り組みが必要である。	・ 昨年度に引き続き、「図書館の時間」、「おすすめ本」表彰、定期的な読み聞かせなどに加え、「教職員の読み語り」などを行った。利用者数や児童の反応など分析して、課題を整理し、方向性を見出していく必要がある。 ・ 読書の推進は昨年度と同評価であったことから、読書は定着しているが、こどもの興味関心にあった図書が少ないことが考えられるため、アンケート調査を実施する等児童の意識や実態を把握するための方策について検討していく。
	生徒指導・ 教育相談	①教職員の話しやすさ(教育相談) ②生活指導の適切な指導 ③生徒指導の適切な指導 ④教職員のこどもへのかかわり ⑤こどもの立場に立った対応【新規】 ⑥こどもや保護者との関係づくり【新規】 ①教職員の話しかけやすさ ②教職員の声かけ	①プラス評価91％　マイナス評価9％ ②プラス評価91％　マイナス評価9％ ③プラス評価88％　マイナス評価12％ ④プラス評価91％　マイナス評価9％ ⑤プラス評価84％　マイナス評価16％ ⑥プラス評価83％　マイナス評価17％ ①プラス評価88％　マイナス評価12％ ②プラス評価90％　マイナス評価10％		●　90％または80％後半と、評価は低いわけではないが、他の項目に比べると全体的にマイナス評価の数値が高い。 ●　新規項目であるこどもの立場に立つ、関係づくりはマイナス評価が多い。話しかけやすさや声かけの評価にもつながる状況であると考ええる。 ○　児童の評価に比べ、保護者の評価が高いのは、日常的な連絡や速やかな対応がなされているためであると考えられる。	・ 教職員の話しかけやすさや教職員の声かけについては、個々で改善すべき点もあるが、中央小学校教職員としての心構えを明確にして共有し共通実践できるよう具体的方策について検討していく。
	教育環境・学校安全	①安心安全な教育環境 ②事故災害等の適切な対応 ①楽しい学校 ②楽しい学級 ③校内の整理整頓 ④安全な学校	①プラス評価96％　マイナス評価4％ ②プラス評価96％　マイナス評価4％ ①プラス評価87％　マイナス評価13％ ②プラス評価90％　マイナス評価10％ ③プラス評価91％　マイナス評価9％ ④プラス評価86％　マイナス評価14％		○　安全安心、事故等への対応が昨年度を上回る高評価であった。毎月の安全点検、すくーるメールでの情報提供や呼びかけなどの成果が表れている。 ●　一方で児童の安全な学校の評価は保護者の評価を10P　下回る。遊具の使用禁止等の具体的な状況が影響している可能性がある。	・ 安全点検の実施状況や、不具合などの改善状況等を見童に伝える手立てを工夫する。(以前は児童向けの「安全だより」を作成し、廊下掲示していたこともある)
	開かれた 学校	①学校・学級だよりでの発信 ②来校者への適切な対応 ③小中一貫教育の推進		①プラス評価95％　マイナス評価5％ ②プラス評価85％　マイナス評価15％ ③プラス評価90％　マイナス評価10％		●　来校者への適切な対応は、昨年度より下回り、改善を要する項目である。 ○　小中一貫は昨年度を10P　上回る高評価である。
職員 対象項目	(1)主体的に学ぼうとする子に向けての施策			<教務部> ○　評価は全て　90％を越え概ね良好であるが、昨年度からの懸案事項(家庭訪問、評価の2期制)について来年度実施していく必要がある。 ●　業務が多岐にわたるため、一つ一つの業務を円滑に進められないことがあった。 ・ 評価の2期制について、計画的に立案し実施する。 ・ 教務部の割振りを見直し役割を明確にするとともに、円滑に業務が進められるよう他の分掌との連携、協力を図っていく。 ・ 幼小接続に関する計画や実施について検討を重ね、連携・交流をさらに推進していく。 ・ 年度末、新担任に学年の活動等を引き継ぐため、データ保管場所を明らかにするよう教務部からも周知する。		
	①子どもが主体となる授業づくりの推進		①プラス評価96％　マイナス評価4％			
	②子どもの基礎・基本の定着		②プラス評価100％			
	(2)自分の考えをもち表現する子に向けての施策					
	①様々な表現方法の活用の推進		①プラス評価100％			
職員 対象項目	②個別支援の充実		②プラス評価97％　マイナス評価13％			
	③話す力・聴く力の向上		③プラス評価91％　マイナス評価9％			
	④対話力の向上		④プラス評価96％　マイナス評価4％			

職員 対象 項目	(3)学びを深め豊かにする子に向けての施策		<研究部> ● 評価は一部を除き 96％以上であり概ね良好であるが、ICT 教育について推進を図る必要がある。 ・ 簡単に活用することができるようにするための実践的なミニ研修の実施 ・ 組織的に取り組むための、ICT 教育推進リーダー(学校で指名した教員)の研究部への配置 ○ 話す力・聞く力のさらなる向上のため、おしゃべりタイムや授業の中での対話の充実について継続して取り組んでいく。 ・ 今年度の成果をアイデア集としてまとめて来年度に活かしていく。 ・ 座席の配置や ICT 機器の活用等、こどもたちが対話しやすい環境づくりに努める。 <生徒指導部> ○ 評価は 90％を越え概ね良好であり、「やさしい子」の具現化に向けた取り組みは効果的だった。R6 年度の取り組みを継続する。 ・ あいさつに重点を置き、具体的な方法について検討し、全教職員で共通に児童へはたらきかけていく ● 児童理解や多様性を認め合い一人一人を大切にする教育に関して改善点を整理し取り組む必要がある。 ・ 児童の情報共有をスムーズにするために、職員会議等の機会には必ず児童の話題を取り上げて共有する。 ・ 保護者や児童にチームで対応するため、素早い情報共有やいじめ対応の職員研修等行っていく。 ・ 職員会議における児童の情報交換で、最近の生活での課題を共有し、その時々に応じたタイムリーな生活指導を行う。また、状況に応じて放課後に教職員が集合し、情報提供・共有することで速やかに対応していく。 ○ 児童の状況把握のため、tetoru やワンピース(職員情報共有ツール)を有効に活用していく。 <体づくり部> ○ 中央小学校の特色である、中央っ子エクササイズ、ちゅオリンピック、チャレンジカード、中央っ子サーキットについては児童委員会活動と連携しながら継続して取り組んでいく。 ○ ちゅオリンピック、掃除、体力テストで縦割り班を年間通じて活用できたことで縦のつながりができたことから、継続して取り組んでいく。 ● 体力テストの結果は、本校平均値が昨年度県平均値を下回っているものが非常に多かったが、昨年度よりも良い結果となった項目もある。これを受け、課題を明確にした上で、日常的な体づくりの取組を見直していく。 ● チャレンジカードの内容を見直すとともに、低学年体育で取り入れ遊具を使った外遊びにつなげていく。 ● 階段一段飛ばしの評価が最も低いが、環境整備を推進しており、大人も一緒に取り組んでいく。	
	①単元を通した授業づくりの推進 ②自学ノートの適切な評価 ③図書館活用教育の充実 ④ICT 教育の推進	①プラス評価100％ ②プラス評価100％ ③プラス評価96％ マイナス評価4％ ④プラス評価81％ マイナス評価19％		
	(4)自分に自信をもち明るくたくましい子に向けての施策			
	①自分に対しての AKSZ の徹底 ②機会の設定などを通して縦割り班活動(そうじを含む)の充実 ③キャリア教育の推進	①プラス評価96％ マイナス評価4％ ②プラス評価96％ マイナス評価4％ ③プラス評価96％ マイナス評価4％		
	(5)相手をおもいやり助け合う子に向けての施策			
	①相手に対しての AKSZ の徹底 ②協力できる場として縦割り班活動(そうじを含む)の充実 ③道徳教育の推進	①プラス評価100％ ②プラス評価100％ ③プラス評価96％ マイナス評価4％		
	(6)ちがいを認め大切にする子に向けての施策			
	①特別支援学級や通級指導教室の理解教育の充実 ②低学年で人物画による児童理解の推進 ③人権教育の充実 ④共通した児童観を確立した児童理解	①プラス評価91％ マイナス評価9％ ②プラス評価95％ マイナス評価5％ ③プラス評価96％ マイナス評価4％ ④プラス評価96％ マイナス評価4％		
	(7)進んで体をきたえる子に向けての施策			
	①チャレンジカードの積極的な活用、進んで体を動かす習慣の定着 ②体育の導入での中央っ子サーキットの実施 ③階段一段とばしの奨励 ④中央っ子エクササイズの全校での取組 ⑤外遊びの奨励	①プラス評価95％ マイナス評価5％ ②プラス評価91％ マイナス評価9％ ③プラス評価77％ マイナス評価23％ ④プラス評価100％ ⑤プラス評価81％ マイナス評価19％		
	(8)気持ちよくふるまい、ほがらかな子に向けての施策			
	①言葉遣いやよい行いなどの指導を通して、AKSZ の徹底	①プラス評価91％ マイナス評価9％		
	(9)最後まで粘り強く取り組む子に向けての施策			
	①全校でのちゅオリンピックの取組	①プラス評価96％ マイナス評価4％		
	(10)幼小中およびまつえ天神川学園の連携について			
	①幼小での生活科交流(秋祭りなど)の実現 ②中学校体験と交流、小中共同してのあいさつ運動の実現 ③キャリア教育に関する年間計画に沿った授業の実施と内容改善 ④行事などの振り返りによる学年に応じたキャリアパスポートの作成	①プラス評価100％ ②プラス評価91％ マイナス評価9％ ③プラス評価91％ マイナス評価9％ ④プラス評価96％ マイナス評価4％		
(11)地域のひと・もの・ことを生かした学校運営について		(12)積極的な情報発信と双方向の情報交換について		
①カリキュラムマネジメントから総合的な学習や生活科を中心とした単元配列表の作成 ②学校運営協議会での、地域のひと・もの・ことを生かした取組の紹介と委員から提案の場の設定	①プラス評価96％ マイナス評価4％ ②プラス評価90％ マイナス評価10％	①学級・学校・学園のたよりの定期的な発行 ②ホームページの充実 ③それぞれの評価の PDCA サイクル ④教育後援会・学校運営協議会・学園教育推進会議・PTA の会合での、学校の様子の紹介・意見交換の場の設定	①プラス評価100％ ②プラス評価100％ ③プラス評価96％ マイナス評価4％ ④プラス評価100％	
学校関係者評価	・5校時開始前に行っている体づくり(「中央っ子エクササイズ」)の取組は、5校時の学習に向かう児童の姿勢や集中につながっている。 ・「味覚の学習」や中村茶舗社長の話は、ふるさと松江のよさやすばらしさを感じることができるよい機会になっている。 ・中学校や高校では体験的な学習が少なく、コミュニケーション力や経験が不足していると感じる。地域のお年寄りの方も子どもとの触れ合いを求めているので、関わり合いの機会をもてるとよい。 ・おかげ天神は、道路使用ができなくなり境内でおこなった。そこで行われた「こども天神市」は、狭い空間でにぎわいやこどもの声があつてとてもよかった。中央小ならではのものとして続けてほしい。			
公表先及び公表方法	保護者に対して：学校だよりの配布、ホームページへの掲載、PTA役員会・総会での説明 地 域 に 対 し て：学校だよりの回覧、ホームページへの掲載、評価委員会委員への資料による説明			

